

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4099800015		
法人名	社会福祉法人 博愛会		
事業所名	グループホーム シャラの木		
所在地	福岡県築上郡築上町東築城1630番地 1 (電話) 0930-31-0370		
自己評価作成日	令和 5 年 7 月 31 日	評価結果確定日	令和 5 年 10 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・ご家族や知人、地域の方々がいつでも訪れやすい施設を目指しており、ご家族様、友人、親族の方の面会が多くあります。近くの保育園児や地域の方々との触れ合える機会を積極的に設け、周囲との交流を大切にしています。

・家庭的な雰囲気、安心できる環境に努め、季節の行事、畑での野菜作りや季節を身近で感じるよう工夫をしています。

・利用者の方一人ひとりの気持ちに寄り添い、心情に配慮し、その方に合った個別のサービスを提供しています。

・利用者様の残された機能を最大限引き出せるよう、本人の持つ力を引き出すよう日々工夫し、充実した生活が送れるよう支援しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 5 年 8 月 17 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は木造の平屋の造りで、天井は高く自然光を取り入れ、明るい雰囲気である。お風呂は「ひのき風呂」であり、昇降椅子を設置して誰もが入浴を楽しんで頂けるようになっている。

法人は、保育園や放課後等デイサービス、介護付有料老人ホームと、保育・介護・障害の福祉事業を運営している。グループホームに隣接する保育園の運動場で、子どもたちが運動会の練習をしている姿を応援することもある。管理者は地域の役員として「地域と共に過ごして頂ける」を理念に社会資源の活用に力を入れている。職員は、利用者が自然に囲まれ季節を感じ、温かい雰囲気で1日を大切に過ごせるよう努めている。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念や方針を玄関に掲げ、出勤時は必ず読んで仕事に入るようにしている。管理者が職員会議や日々の業務の際にも、職員に対して、事業の目的、方針を理解し実践できるよう伝え、職員同士も共有している。	玄関やホール、事務所内等、職員の目に付く場所に理念を掲示している。職員は理念の実践に向けて、言葉かけなど日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で長い間、地域交流を控えていたが、今年より保育園の園児との交流のため、保育園の運動会等イベントに参加した。また地域のイベントとして神幸祭に参加を予定していたが、天候が悪く参加が難しかった。今後、文化祭等の地域のイベントの参加を予定している。また、シャラの木便りを毎月配布しており、施設の日常の状況等の報告している。	管理者は隣組組長として地域活動に積極的に参加している。自治会の資料などをグループホームから各町内に配布する活動を行っている。事業所の行事を開催し、地域と交流を行っている。町内から差し入れも多々ある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から介護の相談を受けた際には、認知症、介護保険に関してのアドバイスを行っている。コロナ禍でも感染対策のご協力いただいた上で相談室を開放している。また、地域や居宅支援事業所にパンフレットを配布するなどし、情報交換、空き情報の提供を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の間、運営推進会議の定期開催が困難であった為、施設状況等を書類にて報告していた。現在は定期的に運営推進会議を実施し、施設の状況等を報告、外部評価の報告、改善課題について報告し、事業所の現状やヒヤ・ハット、行事等の報告を行い、今後の取り組みについて意見を伺い、取り入れている。話し合った内容は議事録に残し、構成員の方々、ご家族様に報告を行っている。	2ヶ月に1回開催している。コロナ禍は書面で事業所の活動や環境づくりなどを状況報告し、5類になってからは対面で開催している。職員が議事録を作成し、利用者家族に配布している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	自治体の担当課職員や地域包括支援センター職員の方々に、運営推進会議に参加していただき、意見交換に努めている。事業の報告や運営上の相談をしている。	事業所の広報誌を市町村の窓口に出向いて手渡ししている。事業所を災害時の一時避難場所として受け入れる等、行政との協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを整備している。職員全体でミーティングを行って身体拘束の研修を行っている。拘束しないケアの実践に取り組んでいる。	日中は施錠していない。入居者の身体状況に応じて、足元センサーや離床センサーを使用している。2ヶ月に1度、身体拘束に関する資料を職員に配布し、職員研修を実施している。職員間で話し合い、身体拘束をしないケアを検討し、身体拘束禁止委員会ですらまとめた議事録を保管している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束や虐待に関する事について研修を定期的に行い、虐待の防止、手続きを踏んでいない身体拘束防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する事や成年後見人制度について研修を実施し、職員の周知を図っている。内部研修以外でも外部から講師を招き、研修実施予定。	入居時にパンフレットを活用しながら説明をしている。利用を検討したいと相談がある際は対応している。研修は年2回開催され議事録は職員に回覧して周知されている。玄関に権利擁護・成年後見制度のパンフレットを設置している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際には介護支援専門員より、時間をかけ細かく説明し、納得して契約、入居していただいている。介護報酬の改定や加算が新たに算定される場合は文書等で説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は常に利用者の言葉に耳を傾けるようにしている。家族から要望が出やすいよう配慮するように心がけている。ご家族様の面会時や電話連絡をした際の意見・要望を把握し、職員間で情報共有して、サービス向上に努めている。	家族の面会時に生活状況を報告し、併せて家族からの要望を聞き取っている。要望等は記録に残して職員に周知し、運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行っている。管理者・職員が話し合いを持つ場を設けている。職員が話しやすい人間関係を築いている。良い意見は積極的に取り入れている。	主に業務内の中で意見を聞き、介護主任が取りまとめて管理者へ報告している。意見は職員会議の議題とし、できるだけ意見を反映するように話し合いを行っている。年間行事などは職員の意見を中心に計画し、実施されている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則にて資格手当、賞与、昇給がある。勤務状況や勤務姿勢、取得資格を考慮し賃金に反映している。年に2回の健康診断がある。また研修機会の確保等でスキルアップをはかり向上心を持って働けるよう配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集・採用については性別や年齢の区別はない。職員に能力を発揮してもらうため、給与、福利厚生等、働きやすい労働環境の整備に努めている。</p>	<p>性別や年齢の制限等を理由に採用対象から外していない。無資格者には、資格を取得できるよう勤務形態を工夫している。特別支援学校からの就職も受け入れて、幅広く雇用している。</p>	
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権教育に対するマニュアルを配布し、研修を行っている。</p>	<p>人権に関する研修は年2回実施し、研修記録を保管し、職員がいつでも振り返りができるようにしている。</p>	
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設外の研修を積極的に受講推進を行っているが、地域の研修機関が少ない為、情報を常に収集するように努めている。施設内研修を望む職員が多く、回数を増やしスキルアップに努めている。8月からは認知症介護実践者研修を含め外部研修受講予定あり。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナ禍の間、交流を控えていたが、外部研修や在宅ケア研究会へ参加できるように努めている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>コミュニケーションをしっかりととり、本人の状態やニーズを把握するように努めている。相談から利用までは本人との関係を築く上で大切な時期であり、話をよく聞き、不安な気持ちを受け止めるようにしている。そして疑問点などに丁寧に答えている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>相談から利用までは家族との関係を築く上で大切な時期であり、不安や要望などを聞き、気持ちを受け止めるようにしている。入所当初は家族と面談する機会を設けて密に連絡を取り合い様子を知らせている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階で本人、家族と面談し、必要な支援を検討し、確認し合い対応できるよう努めている。その他のサービスもできる範囲取り入れ、幅広い提案が行えるよう心掛けている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において利用者から教えられる事が多い。例えば、調理での工夫、生け花、田んぼ、畑の知識、生活の知恵など。様々なことを教えていただいている。希望を聞き、意欲を誘い、出来る範囲を広げていくことを心掛けて、職員も学び、共に協力して生活することに重点を置いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様への連絡等を常日頃から行い、面会時にも近況報告し、ご家族様と情報共有して、一緒に支える体制を取っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人・知人の面会等があり、関係継続の支援をしている。かかりつけ医の継続受診の支援、外出レクリエーションで馴染みの場所に行くことがあり、喜んでもらっている。	職員は利用者の馴染みの人や場所を把握している。携帯電話を持ち込み、居室で電話をかけることも可能である。通院などで外出した際は住んでいた所を通ったり、季節ごとに葉書を手作りで作成して送付する等、馴染みの人や場所との関係を継続できるよう支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の準備や洗濯物たたみ等、日常生活の作業を一緒にする中で関係作りが出来ている。また趣味を通じて関係を深められるように支援している。食事の座席等も利用者との関係性を見ながら随時対応している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退所された家族からの相談にも対応している。死亡時は通夜・葬儀、初盆に参列している。家族とも良い関係は続いており、折に触れ訪ねて来られる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人が何を望み、何をしたいのかを、まず考えるようにしている。利用者の言動にどのような思いがあるのか意見を出し合い、スタッフ全員で共有できるようにしている。どんなことをしたいのかを聞き出すようにしている。希望に柔軟に応えることが出来るよういつも心掛けている。	利用者の行きたい所や食べたい物、したいこと等を日々の会話の中から聞き取っている。したくないことは無理強いせず、見守っている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活歴や入所後の生活について記録を残し、スタッフや家族が情報を共有できるように努めている。また日々の本人家族との関わりの中で、経過観察など新たな情報の収集をするようにしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の食事、睡眠、排泄、バイタルの記録や、1日の生活記録等すべての記録を全職員が目を通し、心身、身体の状態を把握している。生活リハビリを取り入れ残存機能活用に努めている。日々変化していく状態を把握できるよう努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、ニーズの把握に努め、本人、家族及び職員の意見を反映し作成している。作成後は、全職員が目を通すようにしている。本人の状態の変化があれば、随時カンファレンスを行い家族の意見も聞きながら新たな計画を作成している。	計画の見直しは6ヶ月に1回行い、状態変化の際は随時見直している。利用者や家族、職員の意見を聞き、カンファレンスを行っており、家族や職員の意見が反映されたプランとなっている。家族参加が難しい場合は電話で連絡している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケース記録で利用者の状態変化を継続的に見ることができる。また介護計画の実践状況を、モニタリング、評価し介護計画の見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の諸事情で病院受診等が難しい利用者には病院受診の同行を行う。歯科医の訪問診療もある。また買い物代行や外出支援をしている。外出支援は季節の感じられるような場所を選んで密にならないようにしている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の家の梅ちぎりに出かけ、交友を深め、一緒にちぎった梅を漬けたり、お花見を一緒にし、庭に咲いている花木をいただき、生花が得意な利用者に生けてもらい皆で観賞し、思い出作りをしている。近くの保育園にも行き交流を図っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様それぞれのかかりつけ医がおられ、定期的きちんと受診できるよう、施設での状況、バイタル等を報告し治療に協力している。 訪問診療も同時に取り入れている。	今までのかかりつけ医や希望する医療機関による受診を支援している。月2回、往診があり、前日に医師へ状態報告し、当日の朝はバイタルを報告している。また、訪問看護については2週間分の状態報告を行っている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を利用している。訪問看護では、事前に電話で状況を報告し、円滑に看護が受けられるように努めている。そして必要に応じて看護師がかかりつけ医の指示を仰ぎ処置をしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した場合は病院に情報を提供している。病院関係者や家族と相談しながら、退院時期や退院後の介護方針等の話し合いをしている。ソーシャルワーカーとは、密に連絡を取るようになっている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化に関する指針や終末期の在り方について家族に説明し同意を得ている。家族や医師との連携を図りながら、心情に寄り添った支援をしている。	入居時に重度化や終末期に向けた方針の説明を行い、意向を聞いたうえで、同意書に記名・捺印をいただいている。主治医が看取りと判断した場合には、改めて話し合い、意向の確認を行っている。全職員で情報共有し、同じ認識のもと支援を行っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアル、事故時対応マニュアルを整備し、研修を行っている。AEDの操作方法、CPR訓練実施。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練、非常災害時対策訓練をそれぞれ年2回行っている。消防訓練は昼間想定と夜間想定で開催。地域の方に消防訓練の参加を呼びかけ、協力をしてもらっている。災害の際は必要があれば公民館又は保育園へ避難するようにしている。	B C Pを作成している。年2回避難訓練を行い、日中と夜間、うち1回は消防署立ち合いのもと行っている。自衛消防訓練計画通知書・自衛消防訓練結果報告書を消防署へ提出している。避難場所は隣接する保育園で階段があるため、車椅子での移動方法についての訓練も行っている。備蓄品は事業所玄関先に、水・米・缶詰などが3日分準備されている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の人格や生活歴に応じた言葉かけや対応を心掛け、排泄や入浴時には特にプライバシーを損なわないよう配慮している。個々人の性格や状態を考えて対応している。	年2回、プライバシーに関する内部研修を行っている。例えば衣服を汚した場合、先に着替えを用意し他者に気づかれないように「ちょっと席をはずしましょうか」などと声をかけ、居室やトイレに誘導し、戸を閉めて支援している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の表情や行動で気持ちの動きを察知している。ゆっくりとした会話の中で本人の希望や気持ちを汲み取り、自己決定できるように対応している。選択できる声掛けを心がけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由に過ごせたり自分のリズムに合わせた個々の生活のペースを大切にし、希望に沿って柔軟に対応している。可能な限り本人の意向に沿った支援を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や服装は本人の好み、個性を大切に支援している。また訪問美容の利用をしている。化粧を希望する方や装身具を好む方等、その方らしい支援を心掛け、家族にも相談し、衣服を準備してもらったりしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には、料理の下ごしらえや、お茶汲み、配膳下膳をしてもらっている。食事が楽しい場になるように、職員が雰囲気作りをしている。また、食事の席は職員間で話し合いを行っている。利用者の好むものをメニューに取り入れ食事作りを行っている。	家族からの差し入れや事業所の庭でとれた旬の野菜や果物を献立に取り入れ、季節を味わっている。また、鰻が食べたいという要望があった際は、献立が決まっても土用の丑の日に鰻に変更する等、柔軟に対応している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を記録し、必要な量を確保できるようにしている。自分で食べられるように工夫をしている。定期的同一法人の栄養士に助言をもらいながら、健康管理を行っている。水分・食事摂取量が少ない方は、高カロリーゼリーなどで補っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの支援や介助、義歯の洗浄など口腔ケアを行う。個々の状態に合わせた援助を行い、必要に応じ毎週訪問歯科で対応している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を付け、排泄パターンを推測して誘導し、出来るだけ失禁などを防ぎ、おむつの使用を減らせるように心がけ、なるべくトイレに座り排泄できる支援を行っている。また表情やちょっとしたしぐさ、行動を見逃さず、気分を損なわないよう声を掛けてトイレ誘導を行っている。	排便コントロールは、排便チェック表で主治医の指示のもと行っている。排尿はパターンを把握し、声かけ、誘導を行っている。排尿量が多く失禁が増えてきた際は、家族に相談し、リハビリパンツやパッドなどの見直しを検討している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を付け、排便状況を把握している。便秘予防のために、水分補給を心がけている。夏場は、水分の多い果物、ゼリーなどをおやつに出している。水分を多く取ってもらうよう心がけている。食事前に嚥下体操を毎日行い、運動を心掛けている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	基本的には週3回。月、水、金曜日に設定している。利用者の状況、体調によるが希望により変更は可能である。また清拭での対応もしている。	週3回、月・水・金を基本としているが、毎日入浴できる体制を整えている。入浴を嫌がる利用者には、職員を変えて声をかけたり、一旦違う話に変えたりなど工夫している。お風呂はヒノキ風呂であり、入浴の楽しみとして菖蒲湯やゆず湯等で入浴と香りを楽しんでいる。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床就寝時間は個別に対応している。個々の生活習慣を尊重し、休息したい時はベッドやソファなど本人の望む場所で休めるようにしている。日中は好きなことで活動していただき、夜は安心して眠れるように個々に対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個別のファイルにとじて全員が見られるようにしている。薬の変更時には申し送りノートに記入し情報を共有できるようにしている。疑問点は医師や薬剤師に相談している。必ず職員2人と本人と薬を確認し声に出して確認をする。服薬後の空袋を確認している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や食事の準備など、日々の中で得意なこと、出来ることを見出し、活気のある日常を送ってもらえるよう努めている。戸外への散歩や外出の支援も行っている。畑で野菜なども作って日々の生活たのしんでいる。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に出るようにしている。希望でドライブや花見等に出かけている。	毎日、近所への散歩を行っている。桜やコスモスなどの季節の花が咲く時期には、ドライブに行っている。その際には住んでいた地域を通り昔を懐かしむこともある。コロナ禍のため、外食は行えていないが、出前やテイクアウトで外食気分を味わうこともある。また、家族が通院を支援する際は、買い物支援もしてもらっている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物などに行く際は、自分で選択し好みのものが買い物できるように支援し、支払い時は職員立ち合いにより一緒に行っている。現金の所持はなく、職員の用意しているお金で決済している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の投函は希望に応じ対応している。季節に応じ、年賀状や暑中見舞いなご、本人の手書きで作成しご家族様に郵送している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造平屋、天窓があり室内は明るい造りになっている。外には、季節の花が見られるようにしている。食卓テーブルの他にくつろげるソファを設置している。利用者が共同で作成する、季節感がわかる制作物を毎月飾って、目を楽しませている。	天井が高く、大きな窓から自然光が差し込み、窓から見える草木の景色と相まって、居心地よくのんびりとした空間となっている。利用者と職員が一緒に作成した季節の作品が飾られ、利用者が生けた季節の花が飾られ、明るく季節感のある工夫がなされている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の椅子、ソファ、玄関の椅子など複数座れる場所を用意し、工夫して配置している。思い思いにくつろいでいる。年間行事に合わせて季節感を感じるように環境作りをしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの家具や家族の写真等思い出深い品を持ってきてもらい、本人にとって居心地良く、落ち着ける空間になるように工夫している。	居室は馴染みのタンスなど思い出の品々が持ち込まれており、居心地よく過ごすことができるように工夫されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口の壁に表札と顔写真を貼ってある。またトイレの場所がわかるように表示している。安全に移動できるよう廊下、居間、浴室、トイレに手すりを設置し、段差がなく車椅子の方も安全に自走できるような環境を整えている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない